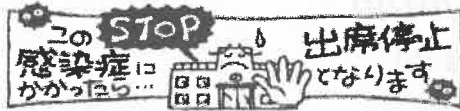


おもな学校感染症一覧表

もしかかったら…
学校をお休みして下さい。



一覧表にあげた病気は“学校感染症”といわれ、たとえ軽症でも登校できません。学校感染症と診断された場合には、学校に連絡をしてください。その後は、出席停止期間を守って、休養して下さい。
*わからないことがあれば、保健室へ連絡して下さい。

○第1種学校感染症

治癒するまで出席停止

※24年 4月改訂

エボラ出血熱・クリミアコンゴ出血熱・バスト・マールブルグ病・ラッサ熱・急性灰白髄炎・コレラ・細菌性赤痢・ジフテリア・腸チフス・パラチフス

○第2種学校感染症

学期中に多い伝染病

病名	出席停止	主な症状	侵入経路	潜伏期間	伝染可能期間	予防方法	好発季節
インフルエンザ	発症後5日経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで	急な発熱、頭痛、関節痛、全身倦怠感、咳、鼻水、のどの痛み	飛沫	1~3日	発病後3~4日	うがい、手洗い、マスク、予防接種(任意)	冬 12~3月
百日咳	特有の咳が消失するまでまたは5日間の適正な抗菌性物質投与による治療が終了するまで	コンコンという短く激しい咳が続く	飛沫	1~2週間	発病後28日	予防接種	夏
麻疹(はしか)	解熱後3日を経過するまで	発熱、咳、鼻水、目やに、結膜充血、頬の内側にアザ(白斑)ができる。発熱後4日目より皮膚に発疹	飛沫	10~12日	発疹の出る5日前~後4日	予防接種	冬~春
流行性耳下腺炎(おたふく)	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで	37~38℃の発熱。片側~両側のあごの後ろが大きく腫れて痛む、食欲不振、嚥下困難	飛沫	1~2週間	発病7日前から発病後9日	患者の隔離、予防接種(任意)	冬~春
風疹(3日ばしか)	発疹が消失するまで	発熱、発疹、耳の後ろ・首・脇の下などが腫れる。咳、結膜の充血	飛沫	2~3週間	発疹のでる7日前から、でた後の7日間	患者の隔離、予防接種	春~夏
水痘(水ぼうそう)	全ての発疹が痂皮化するまで	水疱のある発疹が体中に次々できる。かさぶたになり、先に出たものからなおっていく。	飛沫・直接	2~3週間	発疹のでる1日前からでた後の6~7日	患者の隔離、予防接種(任意)	冬~春
咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状が消失した後、2日を経過するまで	発熱、のどの痛み、結膜の充血、首のリンパ節の腫脹	結膜接触・汚染物	5~7日	発病後2~3週	水泳禁止、洗眼	夏~秋
結核	伝染のおそれがなくなるまで	初期は自覚症状無し。X線で発見されることが多い。疲労感、発汗、微熱、体重減少、胸こり、咳、たん	飛沫	1~2ヶ月		BCG接種 X線による早期発見。栄養と休養	なし
髄膜炎菌性髄膜炎	伝染のおそれがなくなるまで	高熱、頭痛、嘔吐、頸部硬直 早期の治療が必要	飛沫	2~5日		早急な治療、保健所への届け出義務	なし

○第3種学校伝染病

ただし第3種のその他の感染症については病気が治癒していなくても診断によっては出席停止とならない場合もあります。医師の指示に従ってください。

流行性角結膜炎		眼の異物感、涙がよく出る。目やに、結膜の充血	結膜接触・汚染物	5~7日	発病後2~3週	水泳禁止、患者のさわったものを消毒する、手洗い	春~夏 5月頃
急性出血性結膜炎		眼の痛み、きつい充血、出血してくる	結膜・汚染物	1~2日	発病後5~7日	患者のさわったものを消毒する、手洗い	春~夏
腸管出血性大腸菌感染症(O-157)		激しい腹痛、水様性の下痢、嘔吐、吐き気	経口	3~8日		手洗い・加熱消毒	
ヘルパンギーナ		高熱(38~39℃)のどの痛み、発赤、のどの奥に小さな水疱疹、潰瘍	飛沫	2~7日	発病後2~3日	外出を避ける	夏
溶連菌感染症	症状により学校医、その他の医師において伝染のおそれがないと認めるまで	高熱(39℃)発疹、扁桃の発赤や腫れ、のどの痛み、いちご舌	飛沫	2~5日	治療開始後24時間	うがい、手洗い	
マイコプラズマ感染症		発熱、乾性の激しい咳が続く、のどの痛み、胸部レントゲン陰影	飛沫	2~3週間	急性期	マスク	
伝染性紅斑(リンゴ病)		両頬に少し盛り上がった麻疹様の発疹、手足に網目状の紅斑、発熱	飛沫	10~20日	発疹のでる1~2週間前の数日間		冬~春
手足口病		軽い発熱(2~3日)小さな水疱が口の中や手足にできる	飛沫	2~7日	症状のある間	手洗い、消毒	夏
RSウイルス感染症		発熱、鼻水、咳、喘鳴、呼吸困難	飛沫・接触	2~8日	症状前~3週間	手洗い・うがい	冬
感染性胃腸炎(ノロウイルス他) 流行性嘔吐下痢症(ロタ)		発熱、腹痛、下痢、嘔吐・便が白くなる(ロタ)	経口・飛沫	1~3日	症状がある間	手洗い・消毒	
その他							
アタマジラミ・伝染性軟属腫(水いぼ)・伝染性膿痂疹(とび)		登校しながらの治療が可能です。	出席停止の必要はありませんが担任にはご連絡下さい。				